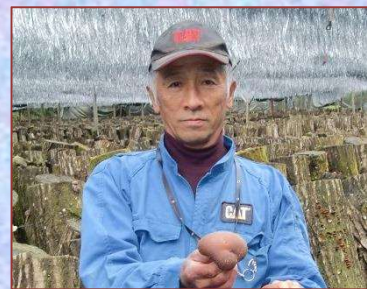


～ 条件不利地域でも高収益農業を実現 ～
菊地 茂さん（大洲市）

愛媛県農業指導士 1955 年生まれ
大洲市認定農業者協議会支部長



☆経営概況☆

大洲市南久米地区の山間部で、しいたけ（原木）を中心に、水稻 4ha、作業受託（収穫・調製）8ha、栗 2ha の複合経営に取り組んでいます。

頼まれたらイヤと言えない性格もあってか、JA 愛媛たいきの米麦生産出荷協議会発足当初から平成 25 年までの 14 年間、会長を務め、食味が非常に良く高温障害に強い水稻の新品種「にこまる」の導入にも早くからかかわってきました。

☆ここがポイント☆

■人工ほだ場による大規模しいたけ栽培

経営の基幹となるしいたけについては、自動散水装置を備えた 1.3ha の人工ほだ場を設置し、労力の軽減、安定した生産量の確保、良品率の向上を図っています。7 箇所のほだ場があり、収穫期の 11～4 月には毎日 10 人ほどを雇用し、乾燥しいたけとして年間 3 t を出荷しています。

■地域の水田を守る

地域内の小規模・不整形な棚田のほか、地域外からも頼まれ、水稻を栽培しています。栽培面積の 7 割近くが借地によるもので、県育成品種の現地適応性試験等にも協力しながら、作業分散を図るための品種構成を模索しているところです。このほか、8ha ほどの稲刈りや籾摺り作業も請け負っています。

もともと大規模水田経営が可能な地域ではありませんが、一度荒廃すると二度と水田には戻せないという思いから、やれる間は続けていくつもりです。

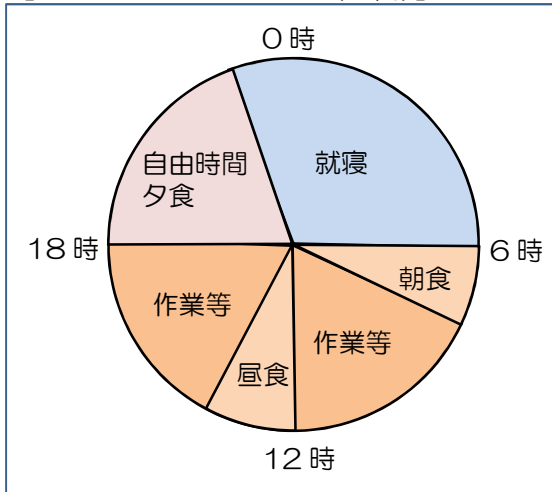


人工ほだ場でしいたけの安定生産を目指す



地域内外から頼まれ、稲刈り作業等の請け負いもこなす

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

見かけによらないかも知れませんが、酒は一滴も飲みません。生まれてこのかた、自分の結婚式で三三九度の時に一口飲んだのが最初で最後です。ですが、酒の席に出ることはさほど苦にはなりません。JA や共済組合の委員、地区の区長など、酒の席が結構多いのですが、できるかぎり親睦を図らせてもらっています。

これといった趣味はありませんが、トラクターやコンバインなどの農機具には経営的な面とは別次元の個人的なこだわりがあって、他人に言わせれば‘農機具マニア’なのだそうです。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	← できるだけ週に1日は休田を設けるようにしています。 →					
【農閑期】	← 雨の日は自然と休日となりますが、地域や組織の会合など、何かと用事があります。 →					



ほとんど自力で組み立てたしいたけの人工ほだ場



こだわりの農機具にはどれにも愛着が・・・

☆これからの夢や目指すもの☆

現在、国が育成し、業務用米として期待されている良質・良食味の多収水稻品種を試験栽培しています。市内の平坦部では飼料用米の栽培も行われていますが、自分としてはあくまでも主食用米の栽培にこだわり、棚田や里山など、いわば‘日本の原風景’を守っていきたいと考えています。

☆メッセージ☆

農業は自然が相手なので自分の思うようにならないことも多いのですが、それでもコツコツと地道に続けていけば結果はついてきます。たとえ「条件不利地域」とか「限界集落」とか呼ばれる地域であっても、やり方次第で十分に高収益農業が可能だと思っていますので、皆さんもぜひチャレンジしてみてください。